

# キーワードは「命の尊厳」

## 飲酒運転死亡事故に思う

### 悲惨な飲酒運転死亡事故

8月25日夜。福岡市東区の博多湾に架かる「海の中道大橋」で多目的レジャー車（RV）が、飲酒運転の乗用車に追突されて海に転落。幼児3人が水死するというむごい事故が起きた。幼い命が一度に奪われた悲惨な事件としてマスコミは大々的に報じた。しかも、追突した乗用車を運転していたのが市の職員であったこともあり、世論は一斉に非難の声を上げた。

この事故以来、警察は飲酒運転と取り締まりを強化したが、その結果、行政の要職にある人や、公務員、学校の先生など公の立場にある人々の飲酒運転が次々に発覚した。

### 飲酒運転に対する意識改革

これに対して行政や警察は飲酒運転の根絶へ向け、一緒に飲んだ者、飲ませた店なども含めて、社会全体の意識改革を訴えた。さらに行政は飲酒運転を行った職員の処罰の強化を検討し始め、交通安全協会は企業の担当者を対象に実際に酒を飲んで運転するシュミレーションを行い、

酒を飲むといかに判断能力が衰えるかという体験をさせてみるなど、さまざまな取り組みがなされている。これらの取り組みは確かに一時的な効果を挙げることだろう。しかし、問題はもっと根源的なものではないだろうか。これだけ世論を喚起し大騒ぎになっているのに、酒を飲んで車を運転するのはなぜだろうか。誰が考えても酒を飲んで車を運転すれば事故を起こす確率が増すことはわかっていて、飲酒運転が法令に違反することも承知の上である。

さらに、その事故が悲惨な死亡事故につながるということもわかっているはずである。それでも、飲酒運転は後を絶たない。事故が発生した時、マスコミはその原因を探ろうとする。そこで浮かび上がってくるのは、運転者がどこでどれくらいのアルコールを飲んだのかということである。確かに、直接的にはそれが原因であることは間違いない。だから、そこから生み出される対策は、前述したようなものになる。しかし、もう一つ忘れてはならないのは、「命の尊厳」ということではあるまいか。

### 浮かび上がる人権教育の課題

人権教育ではこれまで、「差別をしてはいけません」「みんな仲良くしましょう」ということを繰り返し子ども達に伝えてきた。その成果は十分確認される。アンケート調査をすれば100%に近い子どもたちが「差別はいけないことだ」と答えるようになってきた。ただ、なぜ「差別はいけない」となのかということについては、今ひとつ知識も認識も乏しい。

差別がいけないのは何よりも他人の人格を傷つけ、ひいては人を死に追いやる可能性を持っているからだ。人権教育はこのことから「差別をなくそう」と呼びかけると同時に、「個人の尊厳」「命の尊厳」を訴えてきたはずである。

近年の飲酒運転に伴う事故を見てみると、飲酒運転により他人の命を奪ったり、時には自らも命を失ったりと、「命の尊厳」について全く理解していない様子がうかがえる。このことは、交通安全対策であることはもちろんだが、人権教育の課題でもある。近年のさまざまな事件は「命の尊厳」がキーワードであると言っても過言ではない。

### 研修のご案内

#### 第4回人権セミナー

#### 「障がい者（児）の人権」

日時 10月15日（日）  
午後1時30分～

会場 総合福祉センターいこい荘  
講師 宮倉玲子 さん  
(前県人権問題講師団講師)

#### 南部町人権会議 企業職域学習推進部会研修

#### 「社会人としての 人権意識について」

日時 10月24日（火）  
午後7時～8時30分

会場 プラザ西伯  
講師 西田秀隆 さん  
(米子市企業啓発推進員)

内容 働いていく上で、人権意識の必要について話されます。

